



脱炭素チャレンジカップ 2022 挨拶



環境副大臣

大岡 敏孝

本日は「脱炭素チャレンジカップ 2022」の表彰式にあたりまして、環境省を代表して、一言、御挨拶を申し上げます。

まず、各企業、団体からの賞、そして文部科学大臣賞、そして環境大臣賞、各賞を受賞されました皆様、誠におめでとうございます。皆様の日頃の取組がこうした賞に繋がったことだと思います。あわせて、賞をもらう、もらわないに関わらず、今回の取組に参加してくださった皆様全員の取組が多くのCO₂排出量を減らす、環境を守る活動に繋がっております。このことについて、私からも深く敬意と、そして感謝を申し上げます。皆様本当にありがとうございました。

さて、2050年炭素中立社会の移行に向けては、企業や自治体、国民など、あらゆる主体が取り組むことにより、ライフスタイルを脱炭素型へと転換していくことが最も重要と私どもは考えております。環境省としまして、特に2030年までが人類の正念場、勝負の時との決意で取り組んでまいります。具体例として、2030年までに全国で100カ所以上の脱炭素先行地域を実現し、脱炭素ドミノを実現してまいりたいと思います。

脱炭素社会の構築に取り組む皆様方の活動が、脱炭素の取組の後押しや、私たち一人ひとりの理解促進、暮らしの変革につながってまいります。

参加された皆様には、ここで学ばれた知識をそれぞれの御地元でも共有していただき、広く地域の皆様に脱炭素の自発的な行動を促していただき、脱炭素化の輪を、一段と拡げていってくださいますことを、心よりお願い申し上げます。

結びになりますが、大変御多忙の中、脱炭素化について学びあい、連携の輪を拡げていくための「場」を全国各地にお作りいただいた小宮山（こみやま）先生はじめ実行委員の皆様、審査委員の皆様、御協賛・御協力いただいた全ての企業・団体の皆様、そして、本チャレンジカップを設営していただきましたスタッフの皆様にご心から御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。そして、改めまして受賞された皆様におかれましては、引き続き、企業や国民の行動変革、そして世界の人たちの行動変革に繋がる取組を引き続き進めていただきますようお願い申し上げます。私からの御挨拶とさせていただきます。



文部科学省総合教育政策局主任教育企画調整官

小松 悌厚

『脱炭素チャレンジカップ 2022』表彰式に当たり一言御挨拶を申し上げます。

各賞を受賞される皆様誠におめでとうございます。また、惜しくも入賞には至らなかった皆様におかれましても、それぞれの地域において素晴らしい取組をされているものと承知しております。皆様の日頃からの御尽力に深く敬意を表します。

令和3年6月2日に地球温暖化対策の推進に関する法律が改正され、2050年までの脱炭素社会の実現、環境・経済・社会の統合的向上、国民を始めとした関係者の密接な連携等を地球温暖化対策を推進する上での基本理念として規定する等、国民の環境等に対する取組への協力や理解が前提であることが示されたところです。まさに、現在地球温暖化防止を始めとする持続可能な社会の構築に向けた活動の必要性は一層高まっております。

文部科学省としましても学校における環境教育の充実や、自然体験をはじめとした様々な体験活動の推進持続可能な開発のための教育であるESDの推進など環境教育の推進に取り組んでいるところです。

この脱炭素チャレンジカップは地球温暖化防止に向けた取組に関する優れた取組や、ノウハウを全国に広げていくとともにプレゼンテーションや資料展示等を通じて互いに学び合うことにより持続可能な社会の構築に繋がる大変素晴らしい取組と考えております。

本日御参加の皆様特に小学校、中学校、高校等の皆様におかれましては、学校や地域における環境教育で学んだ様々な経験や知識を活かし、持続可能な社会の実現に向けて脱炭素地球温暖化防止に、関わる活動に今後もぜひ、積極的に取り組んでいただきますようお願い申し上げます。

結びに脱炭素チャレンジカップ 2022 の開催に御尽力いただきました小宮山実行委員長をはじめとする関係者の皆様に厚く御礼を申し上げますとともに御参加の皆様方の益々の御健勝と一層の御活躍を祈念いたしまして、御挨拶とさせていただきます。